

仮称

# 文化の森

準備だより ⑨

## 遺跡とともにある「文化の森」

前回のこの欄では、(仮)文化の森が建設される場所にある「尾崎遺跡」について紹介しました。今回は、そんな尾崎遺跡を通じて(仮)文化の森の姿を考えてみたいと思います。

みなさんは、「遺跡」という言葉を知っていますか? 「遺跡」とは、昔の人たちが生活していた跡のことをいいます。現在の(仮)文化の森は、自然がとてもよく残っている森ですが、発掘調査のおかげで弥生時代から古墳時代の人も、奈良時代の人々も、それ以外の時代に生きた様々な人々も、この場所へ訪れ、この場所で生活を送っていた事が判明しています。地面の下には、そんな世界がまだまだ眠っているのです。

(仮)文化の森はそうした場所に建設されます。そこでは、昔の人々の姿をとってもはっきりと感じ取ることができるので、現在の美濃加茂に住むわたしたちと過去的美濃加茂に住んだ人々を強く結び付けてくれる場所になるでしょう。

(仮)文化の森では、美濃加茂の歴史についても学ぶことができますし、詳しく調べる事ができます。また、みなさんが参加できる体験発掘を行ったり、昔の家の跡を見学できる場所も設けられる予定です。



建設中の「文化の森」 ▲



▲1997年7月に行われた体験発掘

今回は、次の方から貴重な資料を寄贈いただきました。

(平成十一年七月分)

○古書七冊など三点

(桑原庄助さん/本郷町)

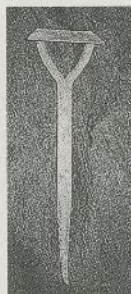
○銭箱、寛永通宝など九点

(大畑守道さん/本郷町)



○柿の木削り器

(山口繁政さん/本郷町)



○蜂屋枝柿箱

(安田鏝平さん/蜂屋町)

博物館建設のため、現在いるいろいろな資料を収集しています。文化課(文化会館内/内四〇八)まで情報をお寄せください。